

蓄光壁紙について

発光するためには、光エネルギーを蓄える必要があります。光源は家庭用の一般照明で十分効果が出ます。

- ・LED照明、蛍光灯、自然光、ブラックライトに効果があります。
- ・白熱電球では効果が得られません。ご了承ください。
- ・蓄光、発光は何度でも繰り返すことができます。
- ・光源の種類や光源との距離により光る強さは異なります。
- ・消灯後、時間とともに輝きが少なくなっています。
- ・ブラックライトを照射すれば発光を継続させることができます。
- ・輝度は周囲の明るさによって相対的に変わります。
- ・蓄光塗料は光の性質で変わります。蓄光塗料は365nm(ナノメートル)付近の短波長の光を多く含む光線が有効に働きやすいため、青色光、ナトリウムランプなどの青色光では効果的に発光しません。白色蛍光灯の方が有効に働きます。
- ・全てのLED光源で十分な発光が得られるとは限りません。LED光源を用いる場合、電球色より昼光色または昼白色がより有効に働きます。
- ・水分と接触すると発光性能が低下することがあります。

可視光線以外の近紫外線以外を効果よく放射するブラックライトを使用すると、永続的に発光させることができます。

- ・ブラックライトの取り付けですが、6畳の天井に垂らされた蓄光壁紙に向けて下から照射するケースでは、20ワットの電灯2本の照射が必要です。天井に垂らされた蓄光壁紙に天井部分からの照射では、40ワットの電灯を1.5m間隔位に何個も照射しないと十分ではありません。電灯の位置関係、取り付け具合、部屋の暗さなどでかなりの差が生じますのでお含みください。ご使用に関しては照明の専門業者にご相談ください。
- ・壁紙の劣化を防ぐためには、ブラックライトは1m以上離して設置してください。
- ・特に広い面積を均一に発光させることは困難ですのでお含みください。
- ・周りが明るいうちの状態のままでは発光効果が十分に得られませんので、対象となる壁紙面は暗くできるように照明の設定を行ってください。室内のメインとなる照明は別し、フットライトで足下の明かりを確保するなど、壁紙面に対し影響の少ない照明を考慮してください。
- ・蓄光塗料は危険な放射線物質は一切含んでいません。安心してご使用ください。

見本帳について

施工例の写真は印刷のため実際の商品と異なって見える場合もありますのでご了承ください。掲載商品の価格及び仕様は、本見本帳発行時(2019年4月)のもので、経済の変動、品質の改善により、やむを得ず価格及び仕様を変更させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。商品の色や、見本帳の品質見本と多少異なる場合がありますのでお含みください。

不要になった見本帳の廃棄

廃棄物処理法に基づき、不要となった見本帳も産業廃棄物としての取扱いが必要です。資格を有する産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。

施工上の注意

- ・特に注意が必要な下記機能性商品の施工要領についてご説明します。
- ・以降の商品群は、一般ビニル壁紙と比べ施工難易度がやや高いため、施工費が別増になる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・一般的な壁紙の施工方法や、壁紙全般に共通する基本的な内容は、左頁記載の「壁紙 施工のポイント」をご参照ください。

汚れ防止壁紙 ●汚れ防止 (エポール、フィルムタイプ) (フッ素系、フィルムタイプ) ●リフククリーン ●アカルクリーン ●ハードタイプ ●汚れ防止 ●スーパーハードタイプ	関係付 ・下地は平滑にし、濡いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききため、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。 施工終了後 ・表面に付いた糊は変色の原因となりますので、きれいな布を使用して十分に拭き取ってください。 【毛玉タリやコンクリートの下地に施工する場合】 ・下地からの汚れや塵埃を防ぐために、下地表面をシーラーで必ず2層処理してください。 【低温時に施工する場合】 ・オープンタイムを長めにとってください。 ・冬期は出来るだけ室内温度を暖めて施工してください。 ・接着剤は5℃以下になると接着強度が落ち、下地に透げられない水分・空気が表面に抜けることができず剥れとなります。 ・モルタル、コンクリート下地の場合は特に発生しやすいのでご注意ください。
●ハードタイプ+ 撥水コート	関係付 ・下地は平滑にし、濡いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききため、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。 【低温時に施工する場合】 ・オープンタイムを長めにとってください。 ・冬期は出来るだけ室内温度を暖めて施工してください。
●表面強化 ●ハードタイプ	関係付 ・下地は平滑にし、濡いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききため、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。 ・汚れ防止機能を持つものは上記の汚れ防止壁紙の施工上の注意をご参照ください。
●シッカクロス	・糊の乾燥が遅いため、付け締めはできません。長時間置くことと相別ぎや目スキの要因となります。 ・糊付け後から施工直後は、朝の水分の影響で表面が曇って見える場合がありますが、完全に乾燥すると元に戻ります。
●透湿	・糊の乾燥が遅いため、付け締めはできません。長時間置くことと相別ぎや目スキの要因となります。

素材壁紙 (88 1539~1549)

標準施工	下記は、標準施工に加えて必要な個別施工注意です。	
素材の特性上ジョイント部に色差が生じることがあります。 施工時または施工後に素材が落ちることがあります。		
関係付 ・糊は濡いめに、塗布量は多めにして相別ぎを防いでください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききため、重ね置きはしないでください。 ・オープンタイムは右記にある各商品個別の施工注意をご確認ください。	88 1544~1547 (深澤土壁紙)	・オープンタイムは15~20分、施工可能時間は40分が目安です。長時間おくと相別ぎや目スキの原因となります。 ・折りグセが付かないように両手で持つようにして、4つ折りは絶対にしてください。施工時に折りグセ部分の塗膜が剥けることがあります。
張り付け ・重量がある素材壁紙は、ゆっくり垂らして伸ばしてください。 ・素材壁紙は水を含みやすくなり、天井への施工は破損や素材の脱落などが起こる可能性がありますので十分ご注意ください。 ・指で付けは柔らかい刷毛を使用し、金べらや固いローラーは使用しないでください。 ・カッターの刃は常に鋭利な状態で使用してください。 ・石膏ボード表面層を切り込まないように下敷きテープを使用してください。切り込みは目スキの原因となります。 ・施工中、施工後とも、冷蔵庫などによる急激な乾燥は避けてください。目スキの原因となります。	88 1548・1549 (床間壁紙)	・壁紙の表面を強くこすらないでください。取付けた塗膜が剥けることがあります。 ・壁紙が湿気を含んだ状態で強い力が加わると跡が残ったり、表面が剥けることがあります。
施工終了後 ・表面に糊が付着しないようご注意ください。付着した場合は固く絞ったスポンジで叩くようにした後に、乾いた布で丁寧に拭き取ってください。糊汚れがあると変色の原因となります。 ・張り替えなどで剥がす際は、表面にたっぷり水打ちをして、裏紙にまで溜り気を与えると剥がすことが出来ます。または剥がし材を使用してください。	88 1539~1542 (オレフィンチップ壁紙) 88 1543 (滑石石壁紙)	・オープンタイムは夏期10~20分、冬期25~35分が目安です。長時間おくと相別ぎや目スキの原因となります。